

## 第12回伊佐市新庁舎建設検討委員会議事要旨

- 開催日時 令和2年1月24日（金） 10時00分～12時00分
- 開催場所 伊佐市役所大口庁舎 大会議室
- 出席委員 小山委員長、村田委員、田代委員、曾山委員、岡本委員、中村委員、丸田委員、緒方委員、柿木原委員
- 欠席委員 池畑委員、轟木委員、前畑委員
- 事務局 財政課庁舎建設推進係 向囿係長、遠矢  
ランドブレイン株式会社（基本計画策定支援業者）

===会次第===

- 1 開会
  - 2 委員長あいさつ
  - 3 議事
- (1) 伊佐市新庁舎建設基本計画（案）について

===開会===

### 【委員長あいさつ】

今日は整備目標から議論を始めたい。活発な議論をお願いしたい。

===議事===

- (1) 伊佐市新庁舎建設基本計画（案）について

### 【事務局】

前回の議事要旨への意見はなかったので確定とする。前回から継続して本日は議論をお願いしたい。

### 【委員長】

前回の確認として、第2章18ページにワークショップの参加者の情報（年代や人数など）を掲載する。参加者の情報は、各回の構成ではなく、全体での構成を記載する。21ページについては、整備目標を「創出する」ではなく「育む」に変える、庁舎建設とまちづくりを切り分け、継続的に取り組む方針として掲載するということがであった。それぞれお考えなどがなければ委員長案を作成しているため、それをたたき台とすることで良いか。（異議なし）

※21ページ修正案、参考事例資料を配布

### 【委員長】

整備目標は、「創出する」を「育む」に変え、説明文章も「育む起点となる」に変えている。基本方針は4までをひとくくりとして、5を切り分け、その先の矢印でつなぐ形に変え、その後の展開を見据えた形で記載している。5の方針には、今年度のワークショップが次につながるよう、「③市民参加型の施設運営」を追加した。この事例として、アオーレ長岡では市民活動の広場運営や活動支援をNPO法人が担う形、岡崎げんき館では市庁舎ということではないが、市民や学生がその場所を使うプログラムを企画する形で市民参加型の施設運営をしている。このようなことを踏まえ、中長期的な方針として、「③市民参加型の施設運営」を掲げることを提案した。

○委員からの意見

【A委員】

- ・賑わいを作り出していくのは市民である。現在、素晴らしい活動をしている市民団体がいくつもある。「創出する」と「育む」の区別ははっきりとつかないが、現在活動をしている団体が、よりよくまた活動を広げていくためには、「育む」の方が良い。「創出する」は、新たにつくりだしていくというイメージがある。「育む」とすると、市民参加型の施設運営という部分もいきてくると感じる。

【B委員】

- ・あまり強調しすぎるのはどうか。以前、コンパクトシティということが言われていたが、現実的には難しいということで現在に至っている。ここを中心と言いすぎると、マイナスな捉えられ方をすることを危惧するが、示し方は今回提示された内容の方が良い。

【C委員】

- ・「まちづくりの拠点」とすると、役所自体に市民の活動拠点をもっていく、というように感じる。そうではなく、近くにふれあいセンターや元気こころ館があり、そこをより開放的にしながら、庁舎を考えてもらいたい。シンボルはいいが、あまり「賑わい」ということを言うのは共感できない。

【D委員】

- ・修正内容には同意するが、基本方針の5で「まちづくりの拠点となる庁舎」という表現は必要なのか。基本方針の1から4までで、まちづくりの拠点になることはわかる。わざわざここに記載する必要はないのではないか。

【E委員】

- ・目標は「賑わいを育む」としたほうが良い。市民参加型の施設運営についても考える必要があると思う。

【F委員】

- ・「まちづくりの拠点となる庁舎」は残したほうが良い。新たな庁舎は「まちづくりの拠点」という考え方は必要である。菱刈庁舎に希望することは、「庁舎」を残すことではなく、「市民サービス」を残すことである。例えば、まごし館の一室に市民サービスが残る形にすれば問題ないように思う。

【G委員】

- ・この修正案に賛成である。

【H委員】

- ・「まちづくりの拠点」は行政にまかせるだけでなく、商店街や地域の中にもあるべき。拠点というとそこだけが中心と捉えがちであり抵抗があると思う。「起点」という表現にすればやわらかくなるのではないか。この場所が「起点」としてイベントの出発点や会場となればありがたいと思う。

【委員長】

このことを検討するにあたっては、次章でこの項目を説明する部分があるため、その内容を確認してもう一度整理する。

【事務局】

第3章について説明。

○委員からの質問

【B委員】

- ・屋上緑化は法律にのっとった形なのか。あくまでイメージなのか。  
→例示であり、すべて取り入れないといけないというわけではない。取り入れられるところは設計の段階で検討する。

【E委員】

- ・構造、工法によって工期、工事費はどれくらい異なるのか。ボーリング調査の結果等はどれくらいの時期にでるのか。もう少し具体的な記述が必要ではないか。  
→建物の配置が決まった時点でボーリング調査の位置のあたりをつける。構造、工法については階層、高さ等にもよるため設計の中で検討する。工期については設計内容によって異なるため、明らかになった時点で随時情報を提供する。

○委員からの意見

【A委員】

- ・傍聴席のアクセスは障がい者、高齢者が入室しやすい設備、動線にするのは大賛成である。車椅子の人が苦勞して傍聴席に上っている姿をみたことがある。傍聴に行く仲間を増やすためにも必要なことである。
- ・庁舎ができてから、行政、市民が一緒になって進めていくことが大切である。まちづくりには、旗振り役と、踊り役が必要で、旗振り役は市役所の各課となると思うので、拠点で良いと感じる。

【B委員】

- ・23ページの議会の記述について少し説明させていただく。これら内容については全員協議会で協議した。その中で、議場は誰であっても議員活動に支障がないように段差をなくしフラットにする、また什器を全て可動式とすることで議場も市民の避難所として使えるようにする、委員会室はロスを生まないように市職員の会議など多目的利用できるようにする、ということでこのような記述にしている。
- ・議場を1階に、別棟にという議論もあったが、少しでも少ないコストで、また1階に設置したために市民のための窓スペースが上階になってしまうことを避けるため、議場は最上階にしてエレベーター等を設置し、入りやすいようにしたほうがよいということになった。
- ・拠点とすると集約するイメージになるため、まちづくりの一翼を担う庁舎という捉え方になるように柔らかく表現するほうが良いのではないか。

【D委員】

- ・拠点という言葉はどうするか、まず決めてから議論を始めた方が良いのではないか。
- ・拠点となると他の施設の上位という印象となるので、起点の方が良いと感じる。
- ・整備目標も文言からしても起点としたほうが良いのではないか。

【E委員】

- ・拠点の方が良いのではないか。起点だと役所からの問題提起になり、市民で集い意見を聞くという視点では拠点の方が良い。

【F委員】

- ・拠点で良い。シンボリック的存在であれば、中心となるのは間違いない。新庁舎をつくることで既存の商業施設も充実してくるという観点でこの場所に決めた経緯があるので、まちづくりの拠点という考え方の方が良い。

【G委員】

- ・拠点で良い。起点と表現しても考え方は同じではないか。

**【H委員】**

- ・まちづくりの拠点となる庁舎という部分は残してもらいたい。拠点という言葉に抵抗があるのであれば起点にしても良いのではないかと感じるが、できれば拠点の方が良い。

○第2章及び第3章に対する委員会としての意見  
第2章も含め次回継続審議とし、委員長より案を提示する。

===その他===

**【事務局】**

- ・次回委員会を2月6日（木）10時から 大口庁舎大会議室で開催する。
- ・今回の議事要旨は後日各委員に送付する。

===閉会===